

# なほ

5月号  
vol. 075

特集：都市のインフラ



リレ+なほ+ドク  
「西成で働くパパたち」



# 子育て 居場所

vol.01



日々、暮らしが繰り広げられる私たちのまち。学校に通ったり、仕事をしたり、地域のお祭りに参加したり、様々な世代のいろんな営みが積み重ねられています。

そんな営みを支えるのが、住宅や道路、公園や学校、水道や電気などのライフラインといった「都市（まち）のインフラ」であり、自治体やゼネコン、デベロッパー、コンサルタントなどによってカタチにされています。このような都市をつくる仕事は公共性や専門性がとても高いという側面があり、あまり身近に意識することは少ないかもしれません。

しかし、まちにはいろいろな暮らしがあって、それによりよくしたり、地域の課

題を解決したりする「活動」も都市の営みを支える基盤といえます。コミュニティやネットワークなどのつながり、互助的な働きかけなど、身近な地域力もまちを動かす大きな力になります。つまり、ハードだけでなく、それらを使う人や仕組み、役割などのソフトパワーも「まちづくり」の原動力であり、「都市（まち）のインフラ」の大切な一部です。

特集「都市のインフラ／子どもたちの居場所」では、いろんな世代が関わる「まちづくり」の中でも、とくに「子ども」に視点をあてて、西成をはじめとした新たな動きを取りあげていきます。次世代を担う、そして多世代をつなぐ新たな架け橋として、子どもから広がるいろんなムーブメントをキャッチしていきたいと思っています。



地域の「あそび」の公園

西成区には80近くもの公園がある。天下茶屋公園や天神ノ森公園など歴史の感じられるところ、西成公園や南津守さくら公園といった大きなところ、小さいけれど自然豊かな公園もある。そして、子どもたちが遊んでいたり、木陰に将棋仲間が集まったり、ペットの散歩に來たり、ときにはいろいろなイベントの会場や、緊急時の避難場所になるなど、だれもが自由に使えるさまざまなタイプの公園が都市には整備されている。その規模や設備、そして地域性などによって、使われ方も千差万別である。

これだけ身近にある公園も、地域活動の場として、まだまだ可能性を秘めている。近隣の住民を中心に、町会や公園愛護会など、日々の清掃や地域のお祭りなどを行う地域組織が公園に一番近い存在である。さらに、地域のサークルやグループ、まちづくりやアート系のNPOなど、いろいろな活動の場として使い手が広がれば、使い方のバ

リエーションもより豊かになる。また、公園そのものを考える動きも多様に行われている。公園を住民らでデザインするワークショップや、プレーパーク（※1）のような使い方を検討するアクシオンなどが全国各地で見られる。これら公園の可能性を引き出すのは、行政や専門家ではない。地域の人なのである。その中で、子育て・子育てに取り組み若手のネットワークを中心に「あそび」という活動を紹介する。

あそびぼう、つくろう つながろう

「あそび（にしなりあそびパーク☆Project）」は、2010年から、西成区のいろいろな公園で、プレーパーク的なイベントを展開している。「公園であそぼう、公園でつくろう、公園でつながろう」をコンセプトに、だれでも集うことができる公園づくりを地域と一緒に取り組んでいる。あそびの一日は、公園にた

くさんの仕掛けを仕込むことから始まる。けん玉や竹馬などの伝承あそび、ターザンロープや木工などの体験あそび、お仕事体験&おもちゃ交換できる「かえっこ（※2）」など、様々な企画が持ち込まれる。地域住民、子育て関係の仕事をする人、地域のボランティア、地元の高中生や大学生、アーティストなど、いろいろな人がそれぞれ得意のあそびを準備する。また、公園の特徴を活かしたあそびも練り出される。坂をつかったベビーバスすべりや、大きな木をつかったブランコ、地域の歴史にちなんだクイズラリーなど、その公園だからこそのあそびも加わる。そして、準備もひと段落したころには、乳幼児から、小学生、中学生など、地域の子どもたちが公園に集まり始める。

あそびの仲間を呼ぼう

あそびの日は、日々、関わり手を広げている。地域住民や、興味のある人に出会うと声をかけてぐいぐい巻き込んでしまう。実は自分も、偶然、道端でミーティングに行く途中のあそびメンバーに会ったとき、

「いまから時間あるんやったら、こーへん？」と言われて、ちょっと顔を出すつもりが、ずるずると関わってしまった口である。とにかく、いろいろな関わり手があることで、あそびの内容もぐつと広がる。福祉、教育、アート、まちづくりなど、多様な切り口のおそびが「市場的」に集まることで、とても体験的で創造的な場が生まれている。

地域の関わり手としてゆるやかなネットワークを持つことで、あそびの市場をカタチにしていくところに大きな特徴がある。市場もいろいろな商人が無数の商品を持ち込むからこそ面白い。

しかし、子どもや子育てに関する取り組みは、保護者や教育関係者、子育て施設など、限定的な人しか接点がないと思われるがちだ。一方、あそびでは、多様なあそびの持ち込みを通じて、今まで子どもと関わってこなかった層とのつながりも橋渡ししている。そのつながりは地域の中でも息づき、「顔見知り」の関係や、「ちょっと知っている」

関係を少しずつだが増やしている。その結果、子どもの孤立だけでなく、大人の孤立といった地域課題を防ぐネットワークにもなっている。

商店街とあそびの場

このように、あそびでは、地域の課題にも目を向けながら、公園を自由な空間として、子どもと大人がつながる仕掛けづくりをしてきた。そして、あそびを通じて活動は、公園だけでなく地域のオープンスペースでも可能である。例えば、商店街は多くの人びとが行き交う場であり、さまざまな接点を生み出すことができる。

2013年4月、商店街では初のおそびを玉出で開催した。商店街の巨大マップづくりや「かえっこ」と組み合わせた商店



玉出商店街でのあそび

街のお仕事体験、がらぼん抽選会や、商店街放送体験など、商店街ならではの企画が盛り込まれた。商店街の人、商店街が好きな人、地域ボランティア、あそびのメンバーなどが集まり、いろいろなと知恵を出し合いカタチにしていった。

商店街はそもそも市場であり、多種多様な店が集まる。そこにはいろいろな店主がいて、いろいろな商品やサービスが並んでいる。その一軒一軒の店が、お仕事体験や商店街インタビュなどのあそびのブースになれば、商店街全体は多彩な体験の場になる。商品だけでなくあそび体験を提

園内で所せましと繰り広げられる様子はまさに「市場」。顔見知りになった子どもたちからは「ひらパー兄さん、リヤカーおしとー」と元気な声が飛び交うなど、あそびを通じた子どもたちのコミュニケーションが次々に生まれていく。

夕方に差し掛かり、大人はヘトヘトになるころ、子どもたちも手伝いに加わりながら一気に片づけをすませて、あそびの一日は終わる。あそびぼう、つくろう、つながろうを合言葉にした一日だけのイベントだが、公園を舞台に、子どもたちが主役のちよつとした社会として「子どもたちの居場所」が形成される。

供するという、商店街をベースに子どもと大人がつながる仕掛けを組み込むことで、子どもたちの居場所がさらに地域へと広がっていく。

市場のように様々な世代や職業、立ち場の人たちが集まり「あそび」を持ち寄ることで、公園や商店街など地域のオープンスペースが子どもたちの居場所に変わる。それは、子どもだけでなく、多世代がつながる居場所でもある。子どもたちと地域の接点をつくり、柔軟にネットワークを広げ、様々な場所であそびがカタチになっていくプロセスからは、子どもたちの居場所を地域に根付かせるカギが見えてきた。

(平川)

「子どもの居場所」では、西成を中心に、子どもに関わる地域活動、まちづくり、教育・福祉などの新たな視点を探ります。

【平川隆啓】5月26日（日）は南津守中央公園であそびやります！ちなみに、子どもたちからは「ひらパー」って呼ばれます。

※1 プレーパーク  
子どもたちが自在に工夫し、遊びをつくり出すことのできる体験的・創造的な遊び場。冒険遊び場。  
参考：大阪プレーパークマップ  
<http://www.ipa-japan.org/asobiba/info/2012/oosaka.pdf>

※2 かえっこ  
かえるポイントと呼ばれる世界共通の子ども通貨を使い、おもちゃやお仕事体験などを子ども同士で循環させる仕組みをもつ体験遊びの場。



# サウスオブミナミ

vol.02

サウスオブミナミの東側、西成区の太子・山王界隈、  
聖天坂・天神ノ森界隈、そして阿倍野区の共立通界隈にスポットをあて、アートな動きを追ってみたい。

## Breaker Project(ブレイカープロジェクト)

新世界や山王、太子、飛田界隈をフィールドに、創造活動の現場をまちの中に開拓していく地域密着型のアートプロジェクト。ローカルな視点を持ちつつ、内と外をつないでいく新しい活動を展開中。



### 新・福寿荘 ①

阿倍野区と西成区の境界線、上町台地の崖にへばりつくように建つ木造アパートが、地域に根ざした創造活動拠点に。

### kioku手芸館「たんす」 ②

元たんす店だった古い建物で地域の記憶をつむぐプロジェクトを実施中。

他にも、くちた家 ③を展示の会場にしたり、商店街のアーケードに何気なく作品を飾ったり、地域に眠っている記憶を取材して掘り起こす「西成なるへそ新聞」などいろんな動きが展開されています。

Breaker Project ブレイカープロジェクト実行委員会

☎ 西成区山王1-5-31 新・福寿荘内

🌐 <http://breakerproject.net/>

## COCOROOM ④

商店街「動物園前一番街」の中にある、人々が集まり語りあうおうちみたいなカフェ。アーティスト、活動家、高齢者、働く人、子ども、旅人、世代も職業もばらばらの人たちが集まり、アートと社会の接点・つながりをつくるゆるやかな場所として、ほぼ毎日オープン。



NPO法人こえとことばとこころの部屋

(cocoroom ココルーム)

🕒 11:00-19:00

☎ 西成区山王1-15-11

☎ 06-6636-1612

🌐 <http://www.cocoroom.org/>

## 喫茶EARTH ⑤

新今宮駅・動物園前駅のすぐそばにある、小さな喫茶店。気になる新聞記事をスクラップしてみんなで読みまわす市民メディア「まわしよみ新聞」や、養蚕文化を語り合う「おかいこさまカフェ」など、持ち込み企画が満載。



🕒 12:00-24:00

☎ 西成区太子1-3-26

🌐 <http://www.facebook.com/pages/EARTH/411417968913437>



### 太子・山王界隈

崖っぷちの家!くちた家!あふれ出すカフェ!などなどディープアート

今まで必要なかったくちた家も、見方・使い方を変えると楽しい場所に

西成発のまわしよみ新聞が伝播!

現代アートつながりているんな交流

### 共立通界隈

長屋に囲まれたお散歩コースでふらっと暮らしの中のアート

つくる空間、たのしむ空間、暮らす空間がネットワーク

いろんな場所で展示つながり

### アトリエ・コーナス ①

アート活動を展開する小規模福祉作業センター。障がいを持つメンバーによる社会活動や日常生活にうおいを持たせる取り組み。アートをライフワークに。

特定非営利活動法人コーナス

☎ 阿倍野区共立通2-3-22 ☎ 06-6659-9312

🌐 <http://www.corners-net.com/atelier/>

### あべのま (abenoma) ②

長屋を自分たちの手でリノベーション(改装)したアートギャラリー。アーティストが教えてくれることを親子一緒に学べる場として、ワークショップなどを企画中!現在は公開リノベーション中で、6月オープン予定!

☎ 阿倍野区阿倍野筋4-23-17

🌐 <http://abenoma.com/>

### 聖天坂・天神ノ森界隈

ちんちん電車一駅分で気まぐれアートめぐ!

ちょっとした遊びごころを暮らしに加えてくれるアートがいっぱい



### ギャラリー あしたの箱 ①

ちんちん電車(阪堺線)の聖天坂駅から徒歩すぐの住宅街の中にあるギャラリー。例えばコーナスさんとは展示会でつながるなど、さまざまな作品と人との出会いの場所になっています。ギャラリー2Fでは、大阪ブリキ玩具資料室コレクションも常設展示中。

🕒 13:00-19:00(不定休) ☎ 西成区岸里東1-6-7

☎ 06-6659-8892 🌐 <http://www.ashitanohako.com/>



### あおぞらアトリエ / aozora atelier ②

聖天坂と天神ノ森の間にある小さなお店。「カフェ」「ワークショップ」「アトリエ」を中心に、いろんな人と、いろんなことをシェアできるスペース。

🕒 月-木 9:30-15:00、定休日:金・日・祝、土曜日不定期営業

☎ 西成区岸里東1-11-19 パールハイツ1階 ☎ 06-7503-4618

🌐 <http://aozora-atelier.com/>



### uni:neu(ユニ:ノイ) ③

天神ノ森のすぐそば、ちんちん電車がよく見えるところにあるuni:neuでは、いろんなワークショップが開催。手づくりの雑貨や貸本などこだわりのお店。

🕒 火-金 11:00-17:00、土 13:00-17:00、定休日:日・月・祝

☎ 西成区岸里東2-1-1 ミカサハイツ1F

☎ 06-6651-3390 🌐 <http://unineu.cocolog-nifty.com/blog/>



### 紙芝居劇むすび

太子にあるたまり場を拠点に、紙芝居劇をする平均年齢ほぼ80歳のおっちゃんたちのグループ。保育園や、高齢者の施設、イベントなどに出向いて各地で手づくり紙芝居を公演。おっちゃんの強烈な個性と経験が魅力的な、地域の橋渡し役。

[公演スケジュール・公演依頼] 🌐 <http://musubiproj.exblog.jp/>

他にもアートな取り組みはいろいろ。それらをつなぐとサウスオブミナミ・アートベルトができるかも!!





### プロフィール

西野伸一

家では3人の子どもの父、仕事ではたくさんの子どもの父、日々、東大阪から西成のわかさ保育園に通うパワフルパパ。



田岡秀朋

やんちゃな5歳の男の子のパパで、奈良の生駒から西成へ毎日のように通う。西成の社会的企業「ナイス」ではたらく何でも屋。チームなびのメンバー。

# いい湯かげん


## 公共サービスにコミュニティ経済を

『なび』先月号で紹介したが、「ビルメン労働者調査」は、ビルメン現場の「高齢者が多く、若者が少ない」「稼働年齢人口が減少しているのに、働くことに困難を抱えた人が多い」「独身が多く、社会制度とミスマッチしている」という「三つの特徴」を捉えた。読者から、「西成」や「部落」にも共通する特徴で、(株)ナイスは「立ち位置」を活かして、横浜市の『調査季報 vol.171』が「地域社会の可能性を拓く」という特集を編み、横浜市にも顕著な「三つの特徴」は、市場や行政に加え「コミュニティ経済」という視点が肝要と指摘した。ボクもこの特集に「中間

労働市場と社会的企業」という拙稿を書いた(※)。「コミュニティ」が「地域」だけ意味するのではなく、「ビルメン・コミュニティ」もあることをビルメン調査は描いて見せた。そのビルメン現場で、「人生の中心に仕事を置かない」就労支援の価値転換(小松伸多佳さん)で、「戦前の大阪市社会事業のような」施策を想起してみよう(吉村臨兵衛さん)という着想を先月号で紹介した。かつて介護保険法(1997年)とNPO法(1999年)が複合し、市場から分限されていた「コミュニティ活動」が「コミュニティ経済」に転化し、配食サービスの新しいサービスを市場化したこ

とと、同趣旨の着想だ。新しい「働き方」で、新しい「福祉」を興し、新しい「互助」を創ることをコミュニティ経済と呼ぶというところだろう。「介護」が先駆だったが、各地で「農業」が試みられ、ボク達「ビルメン」でコミュニティ経済を指向してきたが、次のステップは「公共サービス」だと思ふ。約200ha(大阪府の2倍の「耕作放棄地」があるように、公共調達市場は65兆円・500万人の雇用力があるが、公務員化や価格入札で「雇用放棄地」となっている。橋下市長は、原則民営化を公言し、200億円超の大阪市家庭ごみ収集業務も、来年から非公務員化、5年後には完全民営化される予定だ。

だが、ごみ収集の民営化は自明だ。ボクは、道を拓くのは、橋下さんではなく、労組だと思ふ。労働者は、「現場」を離れるべきではないが、排他独占すべきでもない。市民の面前で、橋下さんと労組が、見事な「労使対等」で、労使交渉の醍醐味を見せて欲しいものだ。それが労働運動の復権だし、「現場(ごみ収集コミュニティ)」の復権だと思ふ。市民は労組を見直し、橋下さんは、戦前の大阪市社会事業を導いた関一市長のような名市長になる。



株)ナイス代表取締役  
富田一幸

---

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

「聖天山」は西成区?阿倍野区?どちらでしょう。「リレートーク」の第2弾は、前回のトーク取材で立ち寄った今池こどもの家で初対面の2人。現在、わかさ保育園主任の西野伸一さんをゲストに田岡がホスト。自転車で聖天山界隈に向かいました。道中、すれ違う子どもみんなが「あっ、にしっぺや!」「お〜元氣か!」と声をかけあう姿は、新宿の母ならぬ『西成の兄貴』そのもの。トーク中はネコやイヌの親子にも遭遇し、不思議な縁を感じた1時間でした。

田岡:ロードの自転車に乗ってはるんですね。自転車通勤なんですか。

西野:東大阪から30分くらいかな。自転車で通勤することもあります。

田岡:自転車で生駒から大阪に行ったことがあるんですけど、帰りに自転車パンクしてえらい目にありました。途中で自転車を置いて、あとで車で取りにいきました。

西野:こどもの家で働いていた時は、聖天山にはみんな歩きもって遊びにいった。いい公園なんやけど、あそパー(にしなりあそぼパーク)では使ったことがないねんな。実は阿倍野区の公園やから。いまのところ、あそパーではなんとなく西成にこだわりたいし。

田岡:西成と阿倍野の境界線は、崖というか高いところは「阿倍野」、低いところは「西成」。こんな印象ですね。飛田界隈歩くと特に感じますね。

西野:あそパーは、ある障がいを持つ子どもがイケずされて公園で遊びにくくなりつつあるということを知って、子育てネットなど地域メンバーが「誰もが遊べる公園」をコンセプトにお祭りをやったのが始まり。いまは西成のいろんな公園で年4回のお祭りをやったり、子

もを媒介におとながつながってる。

田岡:すれ違う子どもみんなが顔見知りになるくらい、平日はしごと、休みの日はあそパーと西成にどっぷりやと、奥さんやお子さんからなんか言われませんか?

西野:小6・小2・4歳の子どものいるけど、日曜日に家にいると、一番上の子からは、「おっ、今日は家におんの?」と逆に驚かされてる。休みの日でもパパが家にいないことに家族も慣れてきたんかなあ。

田岡:平川君もそうやし、僕もそうやけど、リレートークで登場した「パパ」はいまのところ奥さんに、あたま上がりませんね。

西野:関わっているイベントに家族で行っても、奥さんは周りのスタッフに気を配るし、子どもとパパだけで行けるようになったら、少し後ろめたさはなくなるかな。さっきネコの親子?いたけど、実はネコが苦手。実家でイヌを飼ってたから、イヌは好きやけど。なんか育てきた環境ってすごい。

田岡:もともと児童関係のしごと希望してはった?

西野:最初は小学校の先生になろうと思ってたけど、もう少し前の幼児期から関わりたくなあと思って。しかも女性が多い職場で男性が働いたらパイオニアになれるかもと「保母」になった。今はその大学もないけどね。

田岡:どこの大学ですか?

西野:聖和大学。いまは関西学院大学と合併して。

田岡:えっ?うちのオカンの出身校です。なんか不思議な縁やな〜。次のあそパーって5月26日でしたっけ。またチビ連れて遊びに行きます。

次回はホストを西野さんへバトンタッチ!

※「中間労働市場と社会的企業」(横浜市 調査季報内)  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/chousa/kihou/>



[高橋静香] 自転車で西成に通うことがふえました。同じ西成の中で、どんどんかわるがわる風景に、いつも心踊らされています。



[みかん] 聖天山は、はじめ聞いたことがない場所でしたが、実際に行くと「あそこか」となりました。また境内にも入ってみたいです。人馴れしすぎている猫の夫婦がとても印象的でした!!



[いっぺー] 予想してたのとは違う、のどかで広くのびのびとした空間は、嫌なことを忘れて、僕の心までのどかにしてしまう。聖天山は、そんな場所でした。





# 西成活動記

## 第二回「ファアーベ」

FAVE (ファアーベ)  
 西成区長橋 3-7-28 ブランコート 1F  
 ☎ 06-6568-3443  
 営業時間：10:00～21:00 (L.O.)  
 定休日：日曜日、第3日曜日



### 身近なちよつと 警沢イタリアン

小さな公園のほとりには、ちよつとおしゃれなレストラン「ベッラファアーベ」があります。4月からはおとなりでフオカッチャ、パニーニ、ピザの専門店「ファアーベ」がオープンしました。

ここ長橋で、2年前にお店を開いたシェフ竹林さんのこだわりは「本格自家製」。お店のそばに菜園をつくりハーブを育てるなど、楽しみながらつくられる料理はやさしさが感じられます。ご近所のお母さんたちが「おいしいパンある?」と笑顔で訪れるなど、ゆつくりと地域に溶け込みながら、でも新しい雰囲気も大切にしたいと警沢なお店です。こだわりフオカッチャ(写真)にも、竹林さんのような温かい表情がうかんでいました。

文..平川隆彦 / 写真..高橋静香

# 枝葉末節

## 漫画少年 その2



hidarimaki こと佐々木です。  
 そろそろ花粉攻撃からは解放され、次なる敵は加齢だっ!!

中学校に入學してすぐ、学内でいくつかの暴力によるトラブルが発生していた。それがどんな内容で、誰が当事者であったのかというようなことを私は覚えていない。生徒たちにはどれだけのことが知らされていたのか、ということも記憶にない。しかし、生徒や父兄の間でうわさ話だけがささやかれていた。ただし、昨今の大津中や桜宮高のごとく重大な結果を生むような事態は起きてはいなかった、と思うが今となってはわからない。

執筆の漫画は、わが「田辺中学校新聞」の一面左肩に掲載された(前号参照)。殴った少年が、先生に「暴力はいかん」とがめられ、先生がその少年に鉄拳をふるう。

殴られた少年は「先生も僕に暴力をしました」といい、先生が唸ってしまおうというオチである。同じ第一面には、少年の不良化防止のためにはどうすればよいのか、というちよつと的外れなメッセージがあり、4面には、当時の暴力事件に対して生徒、父兄、先生たちが暴力排除のコメントをあらわしている。学内では当時相当な問題にはなっていたと想像できる。

これらの記事の中から、いつだれがどんな暴力をふるったのか具体的な行爲は見えない。盛り場や映画館に近づくなど、ナイフなどを持つという説論が目立ち、先生から生徒への暴力というより、生徒同士の喧嘩あるいはイジメがあったというような論調だ。ただし、イジメという言葉は当時の校内新聞中には当然ながら見られない。

私に関していえば、これらの事件の前後、特定の同級生から理由のわからない暴力を受けていた。また体育教師から濡れ衣を着せられクラスをさらしものになって、トホホな新入生をスタートしたのだった。これらの怒りは今も消えないし、どうしようもない恨みの



父と子の  
 突然思い  
 出させた。

記憶を退場させることはない。もう一つの暴力の記憶は親父からの鉄拳であった。父は敗戦後自営をして家族を養った。元帝国陸軍の曹長であった。家族思い、子煩悩、小市民的愛国者ではあったが、子どもの不始末には厳しく、ちよつとしたことで私の頭や顔に手が飛んできた。軍人独特の確たる(ように見えた)歩行や姿勢は子どもの自分にとっては脅威であり、生活に規律を強制されることが大変うとうしかなかった。そもそも父に近づくことが恐ろしく、家の中では親父の視線を伺い、背を曲げながら出来るだけ父から迂回して離れるよう心がけていた。

30数年も前だが「父/パードレ・パトローネ」(77・伊・タビアーニ兄弟監督)という映画があった(写真参照)。この映画は、それまで忘れていたはずの、そんないじめた態度の少年時代を突然思い出させた。

# ピスのつばやま



ピスの育ての母の赤井まゆみです。ピスがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

『My name is ピス』  
 どうして私の名前は、ピスなの?って考えた。ピスの「ピ」は、ピカピカのピ! ピスの「ス」は、素敵なス! ってことかしらと思ってた。ピスは指でVの字つくる幸せなしぐさのポーズ。みんなが「はい、ピス」って写真とったりしているね。ピスは平和を意味する言葉だって。みんなが「いつまでも平和でいられますように」って祈るよね。だから私は自分の名前が大好き。私の名前は日ちゃんからのプレゼント。素敵な名前ありがとワンワン!!

赤井まゆみ

徹底した非和解、反発がテーマになっていて、恐怖の父を避けるため、背を丸めながらすり抜けていく少年のワンシーンが、少年時代の自分に重なったのである。映画の中の少年も私にしても、おびえさせたその根源は父の存在感であり威厳であつたらう。存在感は親父のたたままいであり、威厳には暴力が介在していたのである。

父はむやみに殴ることはしなかった。何か私に不始末がある時に父は殴るわけである。だが幼い私にとっては、いつ鉄拳が飛んでくるかわからない恐怖心を感じていた。つまり殴られる自分の不始末というものが、実は幼い自分にとって自覚していないこともあった。父はむやみに殴ることはしなかった。何か私に不始末がある時に父は殴るわけである。だが幼い私にとっては、いつ鉄拳が飛んでくるかわからない恐怖心を感じていた。つまり殴られる自分の不始末というものが、実は幼い自分にとって自覚していないこともあった。殴るの親の判断だ。私は絶えず緊張感を持たされ、父への嫌悪感だけが膨らんでいくのであった。しかしその父は、勉強もせず漫画や絵を描く私を許容もしてくれていて、その時だけは、私は自由に漫画を描くことに没頭していた。

(この項次号に続く)

hidarimaki



[四井恵介] あーっという間に5月号。アートなスポットをばかばか陽気に探検してみよう?



[飯田沙保里] リニューアルしてから2号目! 毎号、編集時に新しい西成を発見しています。



# 思ったら! にしなりカレンダー

5月  
24-28

## 新世界 デザイン&アートイベント 「ツムテンカク 2013」

アーティスト・デザイナー・パフォーマー・地元の人と、来場されたゲストと一緒に創り上げるクリエイティブなフェスティバル!

新世界エリアでデザインやアート作品の展示・販売、ワークショップや音楽、食など五感で楽しめる大阪で唯一の「街ナカ巡回型イベント」が行われます。

### 「ツムテンカク 2013」

2013年5月24日(金)～26日(日) [3日間]

場所: 新世界全域(大阪市浪速区恵美須東界隈)・スパワールド前広場・新世界市場・ルナストリート・ゲートボール場・各店舗 など

イベント紹介: ハイパー☆マーケット、ジルバル2、オパチャーン、部活 / Bukatsu など

主催: ツムテンカク実行委員会

<http://tsumutenkaku.com/>

5  
12

## GALLERY / CAFE BAR 流流 (ruru)

流流は、阿部野の民家が立ち並ぶ下町にある一軒の古屋を再生した「ギャラリー」「カフェ」と「シアター」が共存する複合的な場です。

ワンオーダー、投げ銭で、気軽にお楽しみいただけるライブイベント「るるおと」が開催されます!

### 流流音楽会「るるおと.1」

2013年5月12日(日)

出演: コハク/長野友美/寺田遼一/松本智仁

OPEN 15:00~/ START 15:30~

1 オーダー(¥200~¥600) + 投げ銭

問合せ: GALLERY 流流

〒545-0042 大阪市阿倍野区丸山通 1-2-2

[open]11:00~19:00、水曜定休

Tel: 06-6656-8184 <http://ru-pe.com/>

5月  
11・12

## カフェ+ギャラリー 「can tutku (ジャン・トゥトゥクー)」

花園町駅近くにあるカフェ+ギャラリー「can tutku」。カフェ&バー、そしてギャラリーや劇場としても使えるスポット。ちなみにトルコ語で can は「魂」、tutku は「情熱」。いろいろ楽しめるアクティブ! なスペースです。

問合せ: can tutku (ジャン・トゥトゥクー)

〒557-0034 大阪市西成区松 1-1-8 出口ビル1階

Tel: 06-6656-4334

平日 8:30-18:00、土曜・祝日 8:30-14:00

日曜・第三土曜 定休

<http://cantutku.sensyuuraku.com/Welcome.html>

### 演劇「魔法の森」

ユニット FU-YA-YO! のふたり芝居。「クマのプーさん」の主人公であるクリストファー・ロビンの物語。

2013年5月11日(土) 14時・19時

12日(日) 14時

\*開場は1時間前から

出演: 橋本フサヨ・藤沢弥生 [FU-YA-YO!]

料金: 2500円 (中学生以下 1500円)

予約連絡先: 有限会社 松本工房

Tel: 06-6356-7701 Fax: 06-6356-7702

mail: mahonomori@matsumotokobo.com

## あとがき

自らの顔を、2ヶ月連続なび誌上で目の当たりにしました。先月号は息子にしては似ていない? どの子だ? そんな反響が嬉し恥ずかしです。

リニューアル後も局部的な関わりで、偏執狂? もとい編集長からの諦め光線を受けながらも、関わることで新たな出会いが演出されて嬉しい限り。手間暇かけずに丁寧でおもしろい誌面づくりができれば。(田岡)

なび5月号(vol.75)

発行日: 2013年5月10日(創刊日: 2007年1月1日)

発行: 株式会社ナイス

発行人: 代表取締役 冨田一幸

印刷: 有限会社前山企広

住所: 大阪市西成区長橋3-6-33 電話: 06-6563-1156

E-mail: [info@nice.ne.jp](mailto:info@nice.ne.jp) url: <http://www.nice.ne.jp/>

編集長: 佐々木敏明

編集: 田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里

デザイン: 高橋静香 イラスト: hidarimaki

表紙写真撮影: 大阪市立工芸高等学校 撮影研究部

三上真奈美(みかんちゃん)、一ノ瀬武留(いっぺーくん)

[表紙の写真は、聖天山で高校生が撮影しました]